

<今朝の聖書から>

村上定幸

【死刑】今朝の聖書箇所も、物語の順番からいっても、ヨハネ福音書の読み方から言っても、全体の中で読まなければならないでしょう。ちょっと前に戻りましょう。ユダヤ人は主を死刑にすることを既に決めていました。先週の箇所でも“石を取り上げた”とありますし、問題はそれをどのように次の段階として行うかということでした。18:31に“ピラトが、「あなたたちが引き取って、自分たちの律法に従って裁け」と言うと、ユダヤ人たちは、「わたしたちには、人を死刑にする権限がありません」と言った”とあります。しかし、要するにこうです。ピラトは、関わり合いになりたくなかった、なので“あなた方のユダヤの律法で裁くがよい”と言います。しかしユダヤ人は“殺すな”という十戒を思いだしたのでしょうか。しかしステファノも多くの人達も石打の刑にあっています。ユダヤ人たちは、ローマの裁量がそこに働いたという既成事実を作りたかったのだ、と理解するのが正しいでしょう。

【イエスではなくてバラバを】恩赦の習慣に従って、ユダヤ人たちに“あなた方に主をかえそうか？”という質問に、“ではなくてバラバを”とユダヤ人は答えます。過ぎ越しの祭りの時に一体このユダヤの歴史が何を経験していたのか、全く忘れてしまっていたことに気がきます。

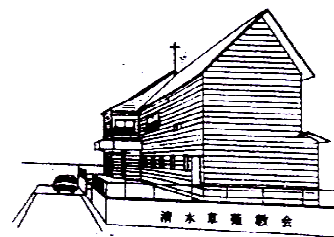
【律法と真理】法は、平和を示している一つの言葉です。またその制度です。今朝の箇所は、官邸を何回も出入りするピラトと主、そしてユダヤ人の会話からなっています。主はピラトに言います。“あなたは自分の考えで、そう言うのですか。それとも、ほかの者がわたしについて、あなたにそう言ったのですか(18:34)”。ピラトは“そんなことはどうでもよい、あなた方の問題だ、第一この問題を持ち込んだのはあなた方だ”と答えています。みんな正しくありたい、汚れていることには手を染めたくない、と思うでしょう。よく理解できます。本当は理解出来てはいけないのかもしれませんが、私たちもよく出来ごとの流れが分かるのです。教会にもこのような出来事が起こります。“これこそ主イエスの真理だ”とばかりに、主の名を使って正義が繰り広げられ、裁きがなされてゆくのです。そして教会は、何時もこのようなもろさを抱え込んでいる群れなのです。大きな教会もすぐに小さくなることがあります。主の名を語る二つの真理が、法の上で衝突しているのです。ですから“教会はこのようにもろい”ということをよく知り、克服できた時には強くなる事が出来るのです。

【罪は見出せない】“ピラトは言った。「真理とは何か。」ピラトは、こう言うてからもう一度、ユダヤ人たちの前に出て来て言った。「わたしはあの男に何の罪も見いだせない(18:38)”と、ユダヤ人の前に現れたピラトは“私は関係ないことだ”というのです。

【真理】18:38に“真理とは何か”という問いに注意しましょう。“私は真理について証しをするために”と答えられます。裁く者のまえで語られます。間違いなく“真理とは何か”という問いに対して、ふまじめな問いだったことが分かります。分かったとは思えなかったし、求めなかったことははっきり分かります。裁かれる中で、輝く真理について語られたのです。そこには弟子達の声もありません。暗い世界にただ一人、輝く真理である方を見失わないようにしましょう。

週報

2011年 11月 20日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042